



# Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No. 6

平成25年2月15日

編集・発行

学校支援課 広報担当

## 授業の質的向上に向けた、 絶え間ない取組を

学校支援課長 高橋 恒彦



中学校で新学習指導要領が全面実施となった平成24年度も、残すところ一か月ほどとなりました。本年度も学力向上はもとより、いじめ・不登校対応、特別支援教育など、学校教育全般にわたり、各学校・園からは精力的な取組をしていただきました。心より感謝申し上げます。

市内児童・生徒の学力向上に関わって、本年度学校支援課では、計画訪問の在り方を見直し、全ての学級の授業を参観させていただく形態に変更しました。一人一人の先生方の、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導力向上の取組を、ご支援したいと考えてのことです。

本年度は、市内奇数学番の小中学校91校(小60, 中29, 特1, 中等1), 実に1,237学級の授業を見せていただきました。それぞれの先生方が、様々な課題に直面しながらも、自身の課題を明確にして指導力向上に取り組んでいる姿を目にすることができ、先生方の意識の高まりを感じました。また、組織的に指導力向上に取り組む学校が増えてきたことも、大変心強いことでもあります。各校の協議会では、授業のさらなる質的向上に向けて、指導主事から話があったことと思います。その内容については、今後もぜひ学校ぐるみでの取組をお願いいたします。

来年度は、市内偶数学番の学校を中心に訪問します。偶数学番の学校では、すでに本年度配付された「授業づくり」リーフレットや本紙「サポート」の事例等を参考にしながら、指導力向上に取り組んでおられることと思います。来年度の訪問でも、素晴らしい授業がたくさん展開されることを期待しております。

明日の新潟市を担う子どもたちのより良い成長のために、これからも共に取り組んでいきましょう。  
一年間、大変ありがとうございました。

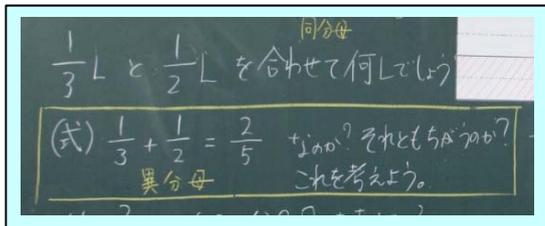


# リーフレットで授業力アップ!! ④

## 追究する学習課題が分かる板書で思考を活発にする ～算数～

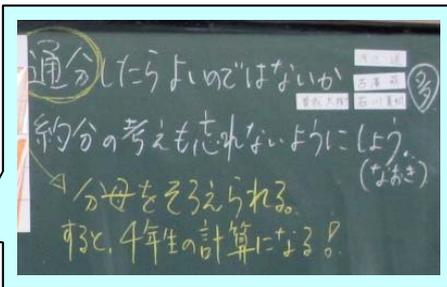
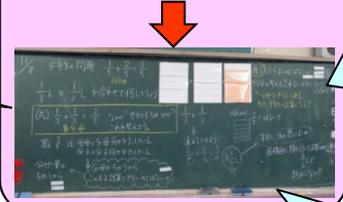
### 「分数のたし算とひき算」

平成24年11月 早通小学校 5年 授業者 岡部 智之 教諭

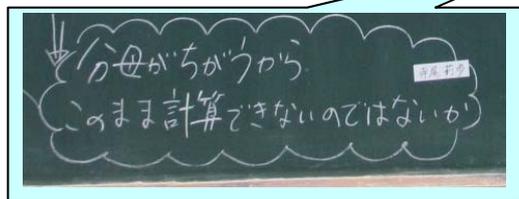


↑ 提示した問題から生まれたズレや疑問を基に、子どもとともに追究する学習課題を設定しています。(問題文がそのまま学習課題となるわけではありません。)

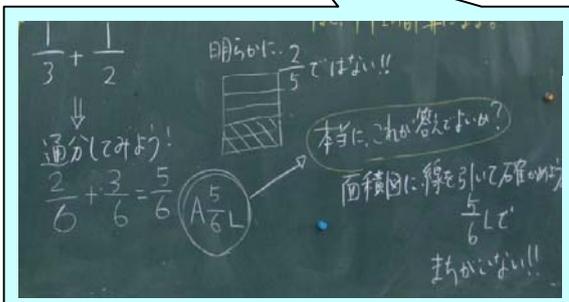
★何をどう学んでいるかが見える板書で、「分かる授業」を実現した実践です。



↑ 子どもの言葉を使って、思考の足跡が分かるように板書しています。



↑ 子どもの予想を生かし、学習の必然性と見通しを導いています。



← 学習を振り返る新たな課題を提示することで、本時のねらいの定着を図っています。

< 文責 田村 篤 >

## ズレを生む課題を提示し、問題解決的な学習を展開する ～理科～

### 「電流とそのはたらき」

平成24年10月 光晴中学校 2年 授業者 眞田 和徳 教諭

#### 課題提示 (回路図を見せて発問)と生徒の意識

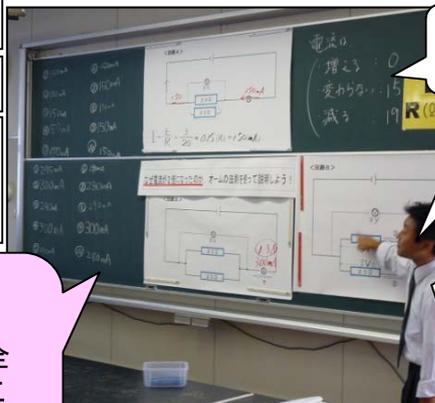
教師: 回路Aに同じ20Ωの大きさの抵抗を、もう1つ並列に加えて、回路Bを作ります。この時、この回路B全体に流れる電流の大きさは、どのようになりますか。

生徒: 電流の大きさは小さくなる。なぜなら、回路に電流の流れにくい抵抗を加えるのだから。

結果: 2倍の電流が流れた。

生徒: 「あれ、おかしいぞ。」「なぜ、抵抗を増やすと大きな電流が流れるのだろうか。」 (既習とのズレ)

眞田教諭は、前時までの学習で解決までの見通しがもてる事象提示を行い、追究の過程で、既習事項とのズレを生む教材を提示しました。それらより、子どもに強い問題意識をもたせ、自問自答しながら解決させる問題解決的な学習を展開しています。



◎ 予想した生徒数を把握し黒板に書いている。

◎ 教師は、生徒の発表内容は繰り返さない。

◎ 「○○ということは、ここが◇◇になれば、どうなるの?」と、さらに思考を促す発問をしている。

◎ 思考 (予想と考察のシート) が掲示されている。  
◎ すべてのデータ (結果) が板書されている。  
(多様な子どもの思考と、班ごとに異なる実験結果が、全員の前で平等に価値付けられ、扱われています。このことは、生徒が「確認と反証による問題解決」の方法を学ぶことにつながっていきます。)

< 文責 永井喜博 >

# 次年度に向け、スタートは今!!

## 学力向上フォーラムⅡ 教員一人一人の日々の授業改善を図る

小・中・中等教育学校の研究主任を対象に、学力向上フォーラムⅡを開催しました。各学校における校内研修の成果と課題を出し合うとともに、現在推進している校内研修を、教員一人一人の日々の授業改善につなげるにはどのような手だてが考えられるかについて協議しました。協議の視点は、「継続」「共有」「PDCAサイクル」です。

次年度の研修体制をどうつくるかは、学校によって児童生徒の実態や課題が違いますので、校長の方針のもと、じっくりと検討してもらいたいと思います。次年度の研修をスムーズにスタートさせるには、今この時期が重要です。



小・中学校それぞれのフォーラムでは、文部科学省のお二人の調査官より基調講演をいただきました。  
 樺山 敏郎 様 『授業の質を磨く～言語活動の充実を中核とした取組～』  
 富山 哲也 様 『中学校における学力向上の方策～言語活動の充実を中心に～』



私たち教員が、日々の授業を子どもにとって分かりやすいものに改善していくことによって、子どもが意欲的に学習に取り組み、確かな学力が身に付くものと考えます。そのために、同僚性と協働性を発揮しながら、教員一人一人が授業の質的な向上を図るよう研鑽(さん)を積んでもらいたいというのが、各学校への学校支援課の願いです。

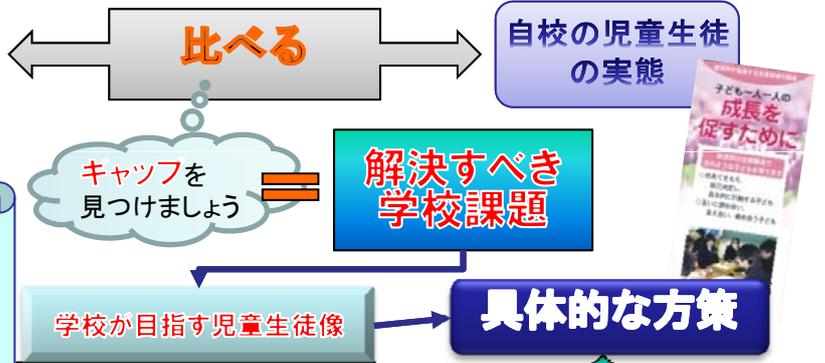
< 文責 吉田 亨 >

## 生徒指導リーフレットの趣旨を生かし、子ども一人一人の成長を促すために

新潟市が目指す児童生徒像

- めあてをもち、自己決定し、自主的に行動する子ども
- 互いに認め合い、支え合い、高め合う子ども

新潟市が目指す児童生徒像と自校の児童生徒の実態には、どのような開きがあるでしょうか。そのギャップを埋めるものが自校の「**解決すべき学校課題**」となります。



授業の中での生徒指導の機能の例



AとBを比べて、どんなことが分かりますか。  
 <課題提示>

目的意識をはっきりさせる

Aは〇〇で、Bは△△です。そして、××なところが、違います。



特別活動での生徒指導の機能の例



今年度の体育祭の目標は、「仲間と協力して、自主的に活動できる力をつけること」とします。

特別活動はねらいが達成できたか評価できるよう、あらかじめ観点を決めておきます。

生徒指導を教育課程に位置づける

授業 特別活動

問題行動対応だけが生徒指導ではありません。日々の学校生活で、「自律性」「社会性」を育てるために生徒指導を教育課程に位置付けましょう。ポイントは「**授業**」と「**特別活動**」です。

# 幼・小・中学校教育の連携，接続について

## 新潟市幼・小・中学校連携推進事業

新潟市教育委員会では，平成22年3月に「新潟市教育ビジョン」後期実施計画を策定し，平成22年度から26年度までの5か年の重点的な取組として「5つの『学びの扉』」を示しました。その中の一つである，幼・小・中の連携については，前期実施計画から引き続き重点的な施策に位置付けられています。

幼・小・中学校連携推進事業は，平成6年度から校長会への委託事業として立ち上げられました。現在では，幼・小・中の校園長会が組織する連携推進委員会により事業が運営され，各校園で積極的な取組が展開されています。連携事業の目的は，9年間あるいは12年間の学びの連続性・系統性を重視し，発達段階を踏まえた上で継続的な指導を行うことです。

### 中学校区での連携事業

平成19年度から平成21年度までの3年間で，各中学校区での取組についてより具体的に協議ができるよう，同規模の3つの中学校区で教育懇談会を実施しました。そして，平成22年度から平成24年度までの3年間では，近隣の中学校区でグループを作り，2巡目の教育懇談会を実施しました。

教育懇談会では，各中学校区での取組の実態を発表し合い，校種間連携のための情報交換が熱心に行われています。今年度までに，学力，体力，生徒指導などのデータを交換し合い，各学校で取り組む共通課題が設定されており，年々，連携事業の質，量ともに向上してきています。



南区 味方中学校区での取組

### 幼稚園との連携事業

新潟市立幼稚園（11園）では，入学者の多い隣接する小学校を中心に積極的な連携を推進しています。

#### 〈職員連携として〉

- ・研究保育の公開と協議会参加の依頼
- ・相互の職員による出前授業の実施
- ・接続を意識した教育課程の編制

#### 〈子ども連携として〉

- ・相互の行事への招待  
→児童会行事「〇〇祭り」への参加  
1年生を幼稚園に招待しての学校生活の報告会  
など



市之瀬幼稚園「幼稚園においで！」

11園中7園は小学校と同じ敷地内に園舎があるため，幼児は日常的に活動を目にし，小学校に憧れをもって生活しています。また，1年生は報告会に参加する活動等で，改めて自分の成長に気付き，自信をもって小学校へ帰っていく姿が見られました。

今後の連携推進の課題として，中学校との連携があります。平成24年度全面実施になった中学校学習指導要領 技術・家庭(家庭分野)において明示された「可能な限り幼児と直接触れ合う体験活動を行う」の実践です。各中学校では，具体的にどの園とどのように連携していくのかについて検討し，実施計画を立てることが重要です。

25年度は，これまでの「新潟市幼・小・中学校連携推進事業」で培われたネットワークが授業の中に生かされ，連続した学びが，より子どもたちの成長を促すことを期待しています。